予算決算審査委員会報告書

令和7年3月13日

備前市議会議長　西上　徳一　殿

委員長　山　本　　成

令和7年3月13日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案　　件	審査結果	少数意見
議案第2号　令和7年度備前市一般会計予算（厚生）	継続審査	―
議案第17号　令和6年度備前市一般会計補正予算（第11号）（厚生）	継続審査	―

予算決算審査委員会記録

招集日時	令和7年3月13日（木）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午後2時19分	閉会
場所・形態	委員会室	会期中（第1回定例会）の開催		
出席委員	委員長	山本　成	副委員長	奥道光人
	委員	尾川直行		守井秀龍
		立川　茂		石原和人
		森本洋子		青山孝樹
		藪内　靖		内田敏憲
		丸山昭則		草加忠弘
欠席委員		中西裕康	土器　豊	松本　仁
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	西上徳一		
説明員	市民生活部長	藤森仁美	市民課長	文田義宣
	市民協働課長	木和田純一	環境課長	岡村　巧
	保健福祉部長 兼福祉事務所長	久保山仁也	保健課長	高橋多恵子
	介護福祉課長	梶藤さつき	社会福祉課長	菊川智宏
	こどもまんなか課長	竹林伊久磨		
傍聴者	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前９時３０分　開会

○山本委員長　皆さん、おはようございます。

ただいまの出席は１２名です。定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会します。

本日は、市民生活部、保健福祉部関係の審査としております。

本日も議案第２号令和７年度備前市一般会計予算、議案第１７号令和６年度備前市一般会計補正予算（第１１号）の２議案の審査を行いますことから、議事の運営に格別の御協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、いずれも補正予算の審査を先に行います。

なお、議案第２号については所管の記載がされた予算書を事務局に配付させております。審査漏れがないよう１ページから２０ページなど、ページを区切って審査しております。区切った範囲内に審査中の所管の予算が存在しない場合も多々あるとは存じますが、審査漏れを防ぐためですので、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

また、本日も席次表を配付させておりますので、現在審査中の部、課については座席表を参考にしてください。

それでは、議事に入ります。

********** 議案第17号の審査（厚生） **********

まず、議案第１７号中、市民生活部、保健福祉部関係の審査を行います。

まず、歳入から行います。

補正予算書は２０ページ、所管別分類表は６ページをお開きください。

審査の範囲は、２０ページから２５ページとさせていただきます。

質疑がある方の発言を許可します。

○青山委員　２３ページの民生費の国庫負担金の５節生活保護費負担金３，４８６万８，０００円の内訳、理由を教えてください。

○菊川社会福祉課長　こちらの生活保護費負担金についてでございますが、生活保護者の世帯数、それから人数の減少ということでございます。令和６年度当初は世帯数が１７０、人員が２１８名でございました。それが令和７年１月１日現在では、世帯数が１６５、人員数が２０１と減少しておりますので、もうそれが影響しているものと思います。

○青山委員　今世帯数と人数を言われたけど、これは実際に今受けている方の人数なのか、対象になるだろうという人数なのか。

○菊川社会福祉課長　実人数でございます。

○立川委員　２０、２１ページで、使用料、３項衛生使用料、１節保健衛生使用料、葬儀使用料１９５万円、実情を教えて。できれば、域外と域内の内訳も分かったら。

○岡村環境課長　斎場の使用料でございますが、斎場使用料、市外の利用者件数が当初の見込み

を上回ったため、ここで補正予算をするものでございます。当初見込みでは、市外が９０件ということで、それから市内４７０件ということで予算を計上しておりましたが、２月１日現在で１３１件の市外の方、それから市内の方が４３６件となっておりますので、ここで補正をお願いするものでございます。

○立川委員　市外はどこが多いでしょうか。

○岡村環境課長　市外どこが多いというのは、特に偏ってはないですが、近隣市町の和気町さん、それから瀬戸内市さん等々から来られる方がおられます。

○尾川委員　２３ページの児童福祉総務費補助金の地域子供の未来応援交付金について、５４０万円減額ですけど、説明してもらいたい。

○竹林こどもまんなか課長　地域子供の未来応援交付金についてでございますが、もともと子ども食堂等の居場所づくりの補助金の国庫補助金の財源でございます。当初予算では、この地域子供の未来応援交付金ということで、事業費の４分の３の補助を見込んで計上しておりましたが、新年度制度が変わりまして、そのすぐ下にございます地域子供の生活支援強化事業補助金というものに変更になっております。そちらにつきましては、３分の２の補助金になっております。実績見込みに対して国庫３分の２の額を改めて組み直して計上した形で、５４０万円減に対して３８０万円の増で調整をしているところでございます。

○尾川委員　子ども食堂については、結構こういう具合で国としたら力を入れてきとる動きになっとんですか、全体的には、方向は。

○竹林こどもまんなか課長　力を入れてるようにも見えるんですが、補助率でいきますと、昨年度４分の３だったところが３分の２になっているとか、いろんなメニューが国庫補助金もございまして、それの有利なものを使っているわけですが、同じ子ども食堂みたいな事業でも、ほかの補助金も幾つかあるんですが、補助率が一番いいものを使ったりとかという形で計上しておりますので、４分の３から３分の２になったところを見て、力を入れてるかどうかと言われると、ちょっと微妙かなというのはあります。

○尾川委員　結構微妙ですね、今の補助率４分の３が３分の２になって、スタンスよりは実態がついていきょうらんというのは、そういう見方もできるということになるわけじゃな。というか、予算が限られとって、増えてきておるから、まあ仕方ねえ、みんなで分けてくれという考え方なんかどうかというのは、ちょっと不明なところですね。

○竹林こどもまんなか課長　おっしゃるとおり、全国でも居場所の数というのはやはり増加傾向、結構な数、増えてるように聞いております。そんな中で国の予算も当然限りがございますので、尾川委員おっしゃるとおり、全体に決められた予算の中でどうしても補助率っていうのは下がってくるのはしょうがないのかなというところはあると思います。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、県支出金に移らせていただきます。

２４ページから３３ページまでを審査範囲といたします。

質疑のある方の発言を許可します。

○青山委員　３３ページの民生費の雑入の生活保護費返還金９５０万円、どういったものか。

○菊川社会福祉課長　生活保護者から実際に生活保護法の中で就労収入があったとか、別の資産があったとか、土地売却したとか、そういったことで保護者の方から実際に支給した保護費の中でその部分の一部を返還していただくというものでございます。

この９５０万円につきましては、先ほど申し上げましたが、土地の売却、それから年金の遡及受給、それから遺産相続等がありましたので、今回この分を上げさせていただいております。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で歳入を終わります。

次に、歳出に入ります。

補正予算書は３６ページ、総務費、３６ページから３９ページを審査対象といたします。

質疑のある方の発言を許可します。

○尾川委員　３７ページ、自治振興費の報償費、特に地域おこし協力隊員の報酬費２，１４０万円、それから住宅費用とか活動補助金も減額になっとるけど、そのことについて説明を。

○木和田市民協働課長　地域おこしに関する人数ですが、当然人数が見込んでおった人数よりも人数が少なかったというところで、家賃、活動費、報償費、それぞれが減額となったというところでございます。

○尾川委員　数字が減ったと思うけど、そのあたりについてどう表現したらええか、魅力がなくなったんか、それとも市とすりゃ、協力隊についての位置づけが変わってきたんか、その辺のことについて。というのが、今７，０００人強の協力隊員を１万人ぐらいにするという国の動きじゃけど、備前市としてどうなんかと、当初予算絡めて説明を。

○木和田市民協働課長　協力隊の募集等につきましては、これまでどおり備前市のホームページ等で募集はかけておるところですが、申込みというか、そういった提案等を受ける件数も少なくなったというところも一部要因かなとは思います。７年度もそれを見越した上で、６年度予算に比べますとかなり実績に見合ったような形での要求はさせていただいておるところです。

○尾川委員　その辺の重点的な動きを考えられとんかなと思うて、国の思惑と備前市としてのやってみて、いろんな方法、定住促進というか、人の流れの創出ということで国は考えとんじゃろうと思うけど、その辺また具体的に、やったけどとにかく人が集まらんというんか、それとも本当に市とすれば国の動きに合わせてもっと地域おこし協力隊について認識新たにして力を入れていくんかと。国としては、募集に経費も３００万円から３５０万円に団単位にするとか、報償費等の経費でも１人当たり３２０万円から３５０万円にアップするとか、そんなことを打ち出しと

るんで、その辺も担当者のところには連絡もあると思うけど、どういう方向づけにしていくというのが気になるところ。要員もそんなにおらんのに、何もかも仕事増えても困るのはよう分かるんで、組織づくりというか、地域おこし協力隊専任の担当者を置くぐらいな対応をするかどうかをお聞きしたかった。

○木和田市民協働課長　備前市としましても、当然このおこしの制度というのは、最終的に外部の方から備前市内へ人を引き込むという側面もございます。ただ、その方の将来的な自立というところも踏まえた上での募集を念頭にするべき制度ではありますので、これまで以上に他の部署からも自分のところの事業等絡めていけるような方が必要であるということであれば、積極的にそういう方が必要だということを担当課、市民協働課としても吸い上げるような形で行っていって、人数は増やせるような方向では考えたいというふうに考えております。

○尾川委員　絶対国が動きょんじゃから、市も同じように動けという意味じゃねえけど、本当に必要性があって、これは価値があると判断するなら力を入れていきゃええし、これはちょっと課題があるよと、いろんな問題、総合的に考えたら、判断したら、これよりほかの方法があるなら、これも要するに人をとにかく増やしたいということじゃねえかな、短絡的に考えたらおえんでしょうけど、そういう一つの移住促進ということで進めてきとる施策と思う。ただ何でもかんでも金が増えたからぱくっと行けという意味じゃないけど、検討してもろうて、本当に備前市にとって必要な施策ということになりゃ、力を入れてもらう。その点をよく検討してもろうて、現場的に見て、それで人にもよろうし、専門職というか、仕事の内容にもよると思うんで、その辺検討していただきたい。

○木和田市民協働課長　委員の御意見を踏まえまして、当然国の交付金を使える事業ではありますので、積極的にその方のスキルと担当課の事業とマッチできるような方がいらっしゃれば積極的には採用していけるような方向で考えたいと思います。

○青山委員　地域の要望とか、昨日もありましたけど、市として、農業の後継者不足とか、そういったことで地域おこし協力隊の方が活躍できると思うけど、そういう募集の仕方はされてるんですか。

○木和田市民協働課長　地域の方からの、例えば区長とかそういった地区からの要望という形は特に設けてはいないですが、例えば今おっしゃったように農業ということに当てれば、備前市の担当課がございます。そこと話をしていただいた上で、こういった方が必要だというふうなことを吸い上げて、その事業に必要な方がいらっしゃるということであれば、募集の候補というか、そういったことに上げさせていただくのは可能かなとは思っております。

○青山委員　もう少し地域のほうへこういった制度があって活用しませんかということを働きかけたり、市としても、こういった部分が弱いなというとこの補強をかけるような募集の仕方をされたらどうかなと。

○木和田市民協働課長　当課でも地区の区長に都度話をする機会もございますし、その際にこう

いった制度がございますということで、そういった事例も踏まえた御提示というか御理解いただけるような方法は取っていければと考えております。

○青山委員　ぜひ空き家対策にもなると思いますし、お願いしたいと思います。

　それから、今年度で期限の切れる方については、コロナ禍で採用したということで、１年の延期が認められたとお聞きして、何人の方かが延長を申し出られたと思うけど、実際に延長になった方はおられるんですか。

○木和田市民協働課長　コロナの影響により活動ができなかったというところが、事業の内容をこちらが確認した上で認められるようであれば延長することは可能性としてはございますが、今年度は特になかったと理解しております。

○青山委員　申出は何件ぐらいあったか。

○木和田市民協働課長　たしか１件ではなかったかと思います。

○青山委員　その方がコロナ禍の活動、コロナの影響でということで認められなかったという解釈でいいですか。

○木和田市民協働課長　はい、そのとおりでございます。

○尾川委員　備前市、定住支援の情報の中に全然地域おこし協力隊のことについて触れられてねんじゃ。何か豊後高田市を参考にすることはないか、あるいは他の自治体の活動について参考にするところがあるかどうかお聞きしたい。

○木和田市民協働課長　私も不勉強でした。他市の状況も確認した上で、当市の定住対策担当課とも協議して、こういった制度も定住につながる制度があるよということで、そこに示せるような形で考えたいかなと思っております。

○守井委員　結局は何人減になったんでしょうか。

○木和田市民協働課長　報償費の地域おこし協力隊の報償費、当初予算で２２名、最終１５名ですので７名の減。

　それから、３９ページの負担金補助、こちらの住宅補助、当初２０名、最終的に１３名で同じく７名の減。

　続けて、地域おこし活動補助金も当初２２名、最終１５名で７名の減ということになります。

○石原委員　地域おこし協力隊に関わる事務、採用、配置であったり、報告を受けられたりというところの窓口を市民協働課で受け持たれて、備前焼とか観光とかいろいろ目的で来られとる方おられると思うけれども、採用されて配属された後は、その隊員との関わりは。例えば備前焼だったら備前焼を受け持っとられる部署と隊員、観光しかり、教育しかり、それぞれの部署との、活動についてはしっかり連携が図られて、市民協働課はどこまで関わるか分からけど、その仕組をお聞かせいただければ。

○木和田市民協働課長　流れで申しますと、例えば、さっき言われた備前焼の関係で採用となる場合の採用の際の手続とか、当然面接とかも行うんですが、そこは主管課である市民協働課と、

担当課の職員とで面接を行います。その後採用となった場合は、活動の計画等を立てていくんですが、そこについても担当課と市民協働課と話をします。その後の活動については、当然担当課が主で隊員と行っていくんですが、一応定期的、３か月ごとに１度の活動の実績というか経過等の把握も必要になってきますので、その際には市民協働課も内容についての精査というか、確認等は行っているというふうな関係で事業を行っております。

○石原委員　その上の協働事業補助金、どういった事業に対しての補助制度で、それから２０万円減額になってますけど、当初予算８０万円でしたか、そういった状況、お聞かせいただければ。

○木和田市民協働課長　事業内容ですが、まずもう事業の名前のとおり協働ですので、市単独ということではなくて、地区とか団体とか、そういった方との連携により行う事業でありまして、特に事例でいいますと、例えば、もうほぼ備前市の事業全域をカバーするぐらいの幅広い内容にはなるんですが、福祉とかまちづくりとか、環境とか、もろもろの事業を解決するための事業を提案された方への補助事業という形となっております。

○石原委員　この交付先は、各地区の区会であったり自治会であったり協議会であったりするところですか。

○木和田市民協働課長　いえ、団体等もございます。

○石原委員　その下のふるさとづくり事業補助金、当初が４００万円、大きな減額になっておりますが、なかなか活用されてないのかなと。地区のみならず団体も対象の事業という捉えでよかったか。

○木和田市民協働課長　はい、委員おっしゃるとおりでございます。

○石原委員　令和６年度については、こういった事業がありますよというお知らせはどういう形で、周知というか。

○木和田市民協働課長　まず、地区の自治会の総会がございます。その折に、この事業の募集内容とか、募集時期とか、事業内容とかをまとめたものを御提示させていただいております。あと、当然広報紙とかにも載せております。

○石原委員　その下のコミュニティ助成事業助成金が半額減額になると思うけども、理由というか、状況をお聞かせいただければ。

○木和田市民協働課長　６年度につきまして２件の申請がございました。そのうち１件が不採択となったということで、結果的に金額は同額だったので半額、半減ということにはなりました。

○石原委員　２件中１件が不採択と、これは採択されて予算計上じゃなくて、先に見込みで計上がなされて、助成金の交付の手続、申請だったり、その後に行われるという事業だったんですか。

○木和田市民協働課長　令和５年度以前は、採択不採択が確定した後に翌年度補正で、６月でたしか予算は計上してたと思うんですが、５年度からは逆に、申請は前年度に来ます。ですので、

その事業が採択されるであろうという前提で予算を計上させていただいた上で、不採択の際には補正で減額という形を取らせていただいたところでございます。

○石原委員　その下の諸費の負担金補助及び交付金、物価高騰対応重点支援給付金、大きな減額となっておりますけれども、こちら状況をお聞かせいただければ。

○菊川社会福祉課長　こちらは、国の低所得者に対する物価高騰支援という給付金でございます。実績及び実績見込みによる減額を計上しております。

６月に補正予算でお願いしました非課税世帯と、均等割のみの世帯に対する１世帯当たり１０万円、子供加算が１人当たり５万円という給付金、それから１２月補正でお願いしました非課税世帯に対する１世帯当たり３万円、子供加算が２万円というものでございますが、１２月補正分につきましては、まだ今現在進行中でございますので、６月の分がもう実績が上がっておりますので、それによって減額をしております。

ちなみに、給付実績は６９４世帯、子供加算は１１６人でございました。

○守井委員　結局予定の世帯数が少なくなったということの原因によるんですか。

○菊川社会福祉課長　予算を編成する際には、当然可能性のある方全てを計算して出しますので、実際は未申告の方であるとか、そういった方が対象になってこない、実際は所得があったとかということもございますので、それとあと、この６月の１０万円、５万円につきましては、前年度に非課税世帯、それから均等割世帯、また同じように給付金がございましたので、それらの方が対象にならないという条件もございましたので、そういった面で実際になかなか対象者が把握しづらかったというところもございますので、こういった形になっております。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、４０ページの２款総務費、４項選挙費から民生費、４３ページまでを審査対象といたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、４４ページの３款民生費、３項児童福祉費、４５ページ。

○尾川委員　４５ページの児童福祉総務費の１９節負担金補助及び交付金、家庭育児応援金がかなり減額になっとんですけど、今日いただいた資料と絡めてその辺の現状、説明していただけたら。

○竹林こどもまんなか課長　家庭育児応援金につきましては、当初予算では出生数をおよそ１３０人程度見込んでおりまして、家庭で育児される方の延べ人数、子供の延べ人数を月平均で１８８人を想定して当初予算を組んでおったところでございます。そこが、出生数の減とか、家庭で育児される方の、認定こども園への入園率が高くなっておりまして、その人数が実績で月に１０８人程度まで減っております。そういったところから実績見込みで減額したものでございます。

○尾川委員　表現が難しいけど、１３０人の出生数というたら、あったらいいなという気持ちが

強いと思うけど、現実はなかなか、費用的には下がってええけど、将来的な問題からいうたら金額が下がってくる。そうすると１３０人の想定はどういうことから考えられたんかなと。何人生まれるかというのが一の一と思うとるから、個人じゃなし市としてどういうふうに考えられとんか、お聞きしたい。

○竹林こどもまんなか課長　結果としましては、前年度の実績で百十数人だったところでございます。そこから転入分とか、若干の余裕分っていうのはやはり見る必要がございますので、希望的なところも含めての１３０というようなところでございます。

○守井委員　児童手当もかなり大きく減じておるということで、このあたりも人数が実績によって減ってきたと思うけど、そのあたりはいかがな状態でしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　児童手当につきましても、やはり出生数の減、そういったところが大きゅうございますが、実際には当初予算でそういった出生数も含めて転入とかの見込みも若干多めに見ていた部分もございますので、当初予算がちょっと余裕があったのかなというような分析をしております。そこから実績見込みでの減ということで計上させていただいております。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、民生費、それから最後４９ページの衛生費までお願いします。

○守井委員　４７ページの４款衛生費、１項保健衛生費の４目公害対策費の１９節負担金補助及び交付金の金剛川浄化対策協議会負担金は、例年ずっと変わらないと思うけれど、減額になっておるけども、どんな状況でしょうか。

○岡村環境課長　この負担金の額なんですが、例年そんなに大きくは変わってないですが、協議会の負担金の確定により今回減額させていただいておるところでございます。

○守井委員　現場で作業ができなかった件があったと、実績としてこういう結果だったということですか。

○岡村環境課長　はい、実績としてこういった形になったというような形でございます。

○石原委員　４７ページの保健衛生費、保健衛生総務費の負担金補助及び交付金の出産子育て応援金、４６０万円減額補正となっておりますけれども、令和６年度、何人の赤ちゃん対象に応援金が支給されて、その状況をお聞かせいただければ。

○竹林こどもまんなか課長　こちら出産子育て応援金につきましては、出産時に５万円、それから妊娠届けのタイミングで５万円という補助金になっております。国の制度でございます。その辺を、出産と妊娠のタイミング、それぞれちょっと年度をまたいだりというので、実際の出生数とはずれも出てきます。そういったところで、１６０件ずつを出産と妊娠のタイミングでそれぞれ計上していたところですが、実際には、先ほどの出生数の減とか、そういったところも同様でございまして、大きめに減額になっているというようなところでございます。

○石原委員　妊娠のときに５万円、円でしたかね、ポイントじゃなくて、円で。ずれも当然生じ

て、５万円だけ６年度に支給されて、現に出産に対して５万円支給された人数が分かれば。

○竹林こどもまんなか課長　出産での見込みにつきましては、９０から１００人の間で予定をしているところでございます。

○守井委員　保健衛生総務費の委託料の健診委託料もかなり減額になっとるが、実績として人数が少なかったと思うけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

○高橋保健課長　健診委託料の減額につきましては、実績に伴うものでございます。受診者の受診率の低下によるものと、また対象人口自体も減少しておりますので、見込みより大きく減額にはなっております。

○立川委員　４６、４７ページ、環境衛生費、１９節負担金補助及び交付金、地区管理墓地整備補助金が８１万９，０００円減額されてるが、件数とか内容とか御説明いただけますか。

○岡村環境課長　地区管理墓地整備補助金でございますが、今年度１件のみの執行がございました。このたび事業費のほうが余りそうなので減額補正というような形で今回上げさせていただいております。

事業内容としましては、墓地の水道施設の設置、駐車場施設の設置、墓参道の整備工事、それから墓地内の支障木の伐採等に補助するものでございます。

補助率が委託料としましては４分の３の補助、上限が１００万円、それから原材料費としましては１０分の１０の補助で、限度額が５０万円となっておるところでございます。

○立川委員　地区の管理墓地ですけど、どのような要件が要るんでしょうか。例えば、市が認定している墓地とか、実情墓地であったらいいとか、お墓がいっぱい立ってて、その地区の管理ですよというのが分かればいいのか、組合が設立されてて管理しているというのが明確に分からないといけないのか、そこら辺の基準はやっぱあるんでしょうね。

○岡村環境課長　地区で管理されとる墓地であれば補助対象になると考えております。

○石原委員　清掃費の塵芥処理費の中の委託料、測量調査設計等委託料、丸々減と。どういった測量調査を見込まれとって減額となった理由についてお聞かせいただければ。

○岡村環境課長　こちらの委託料でございますが、備前市新一般廃棄物最終処分場の整備に係る計画支援事業、実施設計につきまして地元協議及び調整が難航したため、今年度の契約等の見込みが見込めないため、このたび減額をしておるところでございます。

また、この予算でございますが、令和７年度の当初予算に上げ直しをお願いしておるところでございます。

○山本委員長　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第３表繰越明許費補正に入ります。

補正予算書は７ページ、所管別分類表は１ページをお開きください。

質疑がある方の発言を許可します。

○石原委員　民生費、老人福祉費の６６６万６，０００円、閑谷苑さんの介護職員の宿舎整備事業、こちら補正予算で出てきたんですか。これも不測の日数での繰越しのようですけれども、繰り越された後、割と早めに整備がされますという捉えでよろしいでしょうか。

○梶藤介護福祉課長　こちらの閑谷苑さんの宿舎の整備事業でございます。１２月補正で県からの内示があり、上げさせていただきました。そこから具体的な工事の設備について業者との協議を始められておられますが、物価高騰にあるようなコストの上昇や、それから施設整備の内容の調整をもう一度協議をされたということで遅れが出てきたということであります。

今後の見込みにつきましては、現在工事は始まっております。３月末の見込みでしておりましたが、現在予定表をいただいている中では４月下旬には工事が完了というふうに聞いておりますので、工事については順調に進んでいると思っております。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

最後に、全体で質疑漏れはありませんか。

○尾川委員　４７ページ、保健衛生総務費で質問あったけど、健診の委託料で９００万円、健診を受けてないということだと思うけど、予想よりどうかということと、それから健診の参加を、前にもデータをもろうた気がするけど、そのあたりの評価は今後に生かされようとしとるんですか。計画は立っとるけど、あまり使われんというか、こっちの意図しとるところはされんというふうなギャップがある、どういうふうに思われておるか、お聞きしたい。

○高橋保健課長　健診につきましては、まだ６年度は集計途中ではございますが、健康増進法等の法律に基づいて５つのがん検診とあと骨粗鬆症検診、歯周疾患検診等、行っております。

がん検診につきましては、女性がんの検診の乳がん、子宮がん検診につきましては、昨年度より２００人増ということで、非常に受診者が増えておるんですが、レントゲン、結核肺がん検診、それから胃がん検診等の集団検診が例年大幅に減っております。集団検診は主には高齢者が地区の公民館等で受診されるものですが、特に胃がん検診につきましてはバリウムを飲まなければいけませんが、やはり高齢者にとってはちょっと誤嚥のおそれがあるということで負担感が強いということ、またバリウムがその後、便として出ていくときに、便秘等でなかなか出ないということで、検診車による胃がん検診の受診者が年々低下をしている状況です。

備前市としましては、医療機関で個別受診ができるということで、胃カメラによる胃がん検診を実施しておりますが、胃カメラに関しましては２年に１回、５０歳以上の人を対象に自己負担が４，５００円程度かかりますので、やはり受診者も毎年受けるというよりは数年に１回受けていらっしゃるという状況になっています。

市としましては、より健診を受けていただきたいというところではあるんですが、コロナ禍以降、やはり集団で受けるということへの市民の感覚の変化、それから健診を受けなくても平気だという健康づくりに対する意識の低下もあると思うんですが、人間ドックが非常に各地で盛んに

なっておりますので、市の健診の対象者である国保の被保険者なんかは国保特会での人間ドックの定員を増やしたりして、人間ドックでの健診も併せて体制としては整えている状況でございます。

○尾川委員　今御指摘があった内視鏡あるいはレントゲンでいくのと、その辺の評価の違いは。備前市としたらバリウム飲んで検査をもうやめるよという考え方はないですか。

○高橋保健課長　市としましては、健康増進法に基づいてバリウムによる集団検診というものは実施しなければならないので、そこはもちろんやめるつもりはございません。

また、胃カメラもやはり苦痛を伴う検査ではありますし、金額も高額であり、また医療機関での受皿というものも限られてきますので、やはり全く異状のない人とそうでない人のスクリーニングをするという意味ではバリウムによる胃がん検診も効果といいますか、期待はあるかと思っております。

○尾川委員　極端な話、もうバリウム飲むのをやめて、内視鏡に転換するという方向転換は、全体的にもあるいは備前市としても考えてないということですか。

○高橋保健課長　国保特会のほうになるんですが、国保のほうでの人間ドックでは胃がん検診は胃カメラのほうで補助を出しておりますので、そちらで受けられる方も非常に増えていると思います。一般会計においては、個別検診でもちろん委託料の３分の１の自己負担で医療機関で胃カメラが受けれるように補助はしております。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

以上で議案第１７号中、市民生活部、保健福祉部関係の審査を終わります。

暫時休憩いたします。

午前１０時３５分　休憩

午前１０時５０分　再開

○山本委員長　休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

********** 議案第2号の審査（厚生） **********

次に、議案第２号中、市民生活部、保健福祉部関係の審査を行います。

本日も所管が記載された予算書を基に進行してまいりますので、御準備ください。

まず、歳入から行います。

審査の範囲は、２２ページ、１４款分担金及び負担金、２項負担金から１６款国庫支出金、２項国庫補助金、３４ページ、３５ページまでを審査対象といたします。

それでは、質疑がある方の発言を許可します。

○守井委員　２５ページの１５款使用料及び手数料の衛生使用料の葬儀使用料が減額になってるけど、亡くなる方がだんだん増えてきておるのに少なくなっているんですけど、そのあたりはどのように見ておられるか。

○岡村環境課長　こちらの葬儀使用料でございますが、市内件数は過去３年の実績平均の最小値、それから市外件数は過去３年の実績平均の６０％として計上させていただいております。

○守井委員　平均寿命が延びとる割に減っとる、お年寄りが増えていくからこれは増える方向にあると、３年平均では、減ってきてるんですか。

○岡村環境課長　市内は過去３年実績の最小値という部分を捉えて予算化はしとんですけど、全体的には件数は決して減っとるというような状況ではないと考えております。

ちなみに、令和６年度の実績としましては、備前斎場が６０６体、日生斎場が１０２体でございます。

○守井委員　２９ページ、使用料及び手数料の清掃手数料、ごみ処理手数料も少なくなっておるが、ごみの量が少なくなってきたのか。

○岡村環境課長　こちらのほうが過去３年間の実績を基に予算計上をさせていただいております。可燃４５リッター、可燃３０リッター、不燃３０リッターの販売見込みのほうは減少している状況でございます。

○守井委員　ごみ袋は減っておるが、ごみの量自体は増えてたように思うけど、その点はいかがですか。

○岡村環境課長　ちょっと数字のほう今持ってはないですが、最終処分場の埋立てに行く量なんかはだんだんと減っているというような状況でございます。

可燃ごみに関しましては、ごみ質が軽くなっているというような状況にはございますが、全体のトン数で減っているかといえば、そのような状況ではないと考えております。

○守井委員　２９ページ、国庫支出金の民生費国庫負担金、社会福祉総務費負担金の障害者の医療費の負担金が歳入として２００万円ぐらい昨年度に比べて増えるが、障害者等の手当てが増えてきている時代になってきたと思うが、増えた理由を教えて。

○菊川社会福祉課長　障害者医療費負担金についてでございますが、こちらは身体障害者等に係る自立支援医療費の支給に係る国庫負担でございます。

こちら、対象者のほとんどが更生医療に関するもので、９割以上の方が腎臓機能障害、いわゆる人工透析をされている方でございます。こちら、実際に増減の予測がちょっと難しいところはございます。ただ、実績自体は徐々に上がっているという傾向がございますので、予算のほうにも、過去の実績を基に若干伸ばすような形で計上させていただいております。

○森本委員　３０、３１ページの衛生費国庫負担金の１節保健衛生総務費負担金の妊婦のための支援給付費交付金、これは前の出産子育て応援金が変わったと理解しとんですけど、伴走型のところで、お渡しする対象者が妊婦とか養育者とかが変わってると聞いたけど、実際変わってるんでしょうか。それとも内容的には変わってなくて、名前だけが変わったということでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　森本委員おっしゃるとおり、内容は変わってなくて、法律上の給付制度に、国の制度が衣替えしたような形になっております。歳出側でも、支出の名称が、もとも

とは出産育児応援金だったのが妊婦給付支援金ということで、名前も変わっております。

○森本委員　何か、出産前と出産後で給付を渡す方が若干、今までは養育をされてる方から妊婦に限定された形のことを聞いたものですから、お尋ねしました。

○守井委員　３０、３１ページ、１６款国庫支出金、児童措置費負担金、児童手当交付金の金額が大幅に変更になっておりまして、何か制度が変わったのか、その点はいかがですか。

○竹林こどもまんなか課長　児童手当につきましては、今年度、令和６年１０月から対象が高校生まで拡大になっております。また、第３子についての児童手当も、従前１万５，０００円だったものが３万円に増額になっております。そういったところでの全体としての増分が反映されたものと思います。

○守井委員　今森本委員から話があった妊婦のための支援給付交付金が出ておるけど、以前は出産給付金という名前だったのがこの名前に変わったということか。

○竹林こどもまんなか課長　はい、そのとおりでございます。

○守井委員　合わせて対象予定人員は、何人ぐらいを見ておられるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　妊娠時５万円、出産時５万円ということで、１３０人分ということで、それぞれ計上しております。

○尾川委員　３１ページの国庫支出金、４節児童措置費負担金、授産施設措置費負担金が僅かですけど上がっとんですけど、どう捉えたらええか、説明をお願いします。

○竹林こどもまんなか課長　収入等がほとんどない方がお産をするときに措置費として助産施設の措置費というのを支出します。それに対しまして２分の１が国庫補助ということになってるんですが、国庫負担金ですね、県負担金と合わせて支出してるわけですが、今出産費用が上昇傾向にございます。今年度につきましても１件実績がございましたが、当初予算で計上していた額ではお産費用、医療機関に支払う金額が不足しておりまして、今年度につきましても流用対応でしのいだというようなところでございます。そこを当初予算では医療機関に支払う金額を６０万円に設定、そこを増加しております。それに対応しまして国庫負担金等も増えたというようなことでございます。

○尾川委員　こういう授産施設が備前市内にはあるんですか、授産施設についての説明を。

○竹林こどもまんなか課長　通常の産婦人科等につきましては、近隣で、岡山市内、倉敷とかまで含めても２９件ほどございます。ただ、市内にはございません。また、産科があっても、そういった収入が著しく少ないような方の対応、こういったケースっていうのは、よくあるのが、事前の健診とかも一切受けてない、飛び込みのお産みたいなことがケースとしては多くなっております。そういったところを、通常の産科では対応できないというようなケースもあるので、全ての医療機関、産科がある医療機関が先ほどの助産の措置として引き受けてくれるということには現実問題ならないと、そんなリスクの高い妊婦さんの受入れというのをやはり拒否されるケースもございます。そういったところで、受けていただけるような医療機関にお願いをして措置費と

して予算上は６０万円で見ていると、今年度の実績につきましても五十数万円ということになっております。

○石原委員　国庫負担金で妊婦のための交付金１，３００万円のやり取りございましたけども、次のページで衛生費国庫補助金、妊婦のための支給給付費交付金が補助金に名前が変わって１３万１，０００円、それから県の補助金でも同じ名称のものが出てきますけれども、これはどういった事業に充当される補助金でしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　国庫負担金につきましては、妊婦支援給付金の本体は給付金が１００％国庫負担金でいただけます。国庫補助金、それから県補助金の妊婦のための支援給付費補助金につきましては、その給付金の支給のための事務費に対する補助金になっております。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、３４ページから４５ページの１７款県支出金を審査対象といたします。

質疑がある方の発言を許可します。

○石原委員　３６、３７ページ、県補助金、民生費県補助金、１節社会福祉総務費補助金、特別弔慰金等支給事務交付金１万８，０００円の内容、どういったものに交付されるのか。

○菊川社会福祉課長　戦没者の遺族に国が交付する特別弔慰金です。こちらの支給事務費に係る交付金でございます。概要としましては、戦没者の遺族、これは配偶者以外の遺族の方を対象に、令和７年から金額として２７万５，０００円を５年間に分割して支給するものでございます。こちらまだ国会のほうで予算審議中でございますので、確定ではございません。

○守井委員　３７ページの４節県負担金の民生費県負担金の４節児童措置費負担金で児童手当交付金が４，８７０万８，０００円と前年に比べてかなり減額になってるけど、これは国の手当てが増えてきたから県の手当ても減ってきたと見えるが、このあたりはいかがでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　こちらも令和６年１０月の制度改正によりまして県の負担部分が大きく減っております。その分、国庫からの収入が増えているというようなことでございます。

○守井委員　３９ページの民生費県補助金、８節独り親家庭等福祉補助、独り親家庭等医療費補助金も大分減っとるけど、減額の理由は。

○竹林こどもまんなか課長　こちら、令和６年度の歳出側の独り親家庭等医療費の実績見込みから計上しております。補正予算でも多少減額補正をしたような状況でございますので、そういったところから算出しております。

○守井委員　９０万円から減額になっとる、２割ぐらい減ってるけど、実績としてそのぐらい減ってきたという感じですか。

○竹林こどもまんなか課長　実績として減ってるというのもございますが、対象の世帯自体も、子供の人数の減少とかにつられて、独り親家庭とかというのも減る傾向にはあるんですが、医療費のことですので、実際の世帯数の増減以上にもしかしたらそういったインフルとかコロナとか

そういった関係の増減の幅が大きいケースもございますので、必ずしも世帯数が減ったら減るかどうかというのは、決算ベースではちょっと分からないところはございます。

○尾川委員　３９ページの衛生費県補助金、予防費補助金１９４万５，０００円、事故対策費補助金ということで、これは事故があった後処理の補助金ですか。それとも段取りようしょうるということですか。

○高橋保健課長　この予防接種事故対策費補助金は、令和３年度に起きましたインフルエンザ予防注射による遺族に対する遺族年金の国、県合わせて４分の３の補助の金額でございます。１０年間、遺族年金を支払うということになっております。

○青山委員　３９ページ、衛生費県補助金、３節公害対策費の補助金、家庭の省エネ対策加速化事業補助金、昨年よりかなりアップしてるけどどういうことか教えてください。

○岡村環境課長　こちらの補助金ですが、太陽光につきましては、このたび上限４９万円掛ける２０基分、９８０万円、それから蓄電池６万６，０００円掛ける２０基、１３２万円ということで計上させていただいております。

○青山委員　これはまだ太陽光を積極的に市としては進めていくという理解でいいですか。

○岡村環境課長　はい、そのとおりでございます。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、４６ページの財産収入から歳入最後まで、５９ページまで一括で審査いたします。

質疑がある方の発言を許可いたします。

○守井委員　４７ページ、財産収入の物品売払収入、一般廃棄物売払収入の資源物が９２７２ということでありますが、一般廃棄物の状況はいかがでしょうか。量とか値段とか、いかがでしたか。昨年と変わってない感じですが。

○岡村環境課長　こちらの予算ですが、まず一般廃棄物の資源物、金属の売払収入、同じく資源物の紙類、資源物のトレー発泡スチロール、資源物の瓶類、ペットボトル、それから備前マップ、備前焼、こういったものを予算計上させていただいております。

単価ですが、主な単価としまして、スチール缶がキロ当たり４７円、アルミ缶が２０２円、新聞が７．５円、雑誌が１．５円ということで、令和６年度の実績を参考に予算計上させていただいております。

○守井委員　それぞれの単価は上昇傾向にあるのか、それとも下降傾向か、それとも横ばいか。

○岡村環境課長　上がっとるものもあれば、下がっとるものもございます。例えば、スチール缶につきましては、前年が４９円だったものが４７円で積算しております。それから、アルミ缶につきましても、前年が２０５円で積算しておりましたが、このたびは２０２円。新聞につきましても、昨年が５．５円で積算しておりましたが、今年度におきましては７．５円。雑誌ですが、昨年は４円で積算しておりましたが、今年度につきましては１．５円となっておるところでござ

います。

○守井委員　５５ページの雑入、３１節総務費雑入、コミュニティ助成事業助成金、いわゆる宝くじと思うが、内容について教えて。

○木和田市民協働課長　こちらにつきましては、令和７年度が３地区申請ございまして、それぞれの内容につきましては、２地区が公民館の中の備品等の整備、残り１地区につきましては地区の伝統の備品、だんじり等になるんですが、そちらの整備に対する事業となっております。

○守井委員　一般の補助金には上限があって２１０万円か２００万円ぐらいが上限だったと思うが、そのあたりは変わってないでしょうか。

○木和田市民協働課長　はい、過去と一緒で２５０万円となっております。

○石原委員　この補正予算の中で１件、２件見込んどって、１件採択されずというもの、たしか１７０万円ですが、それがここへ１件含まれとるということでよろしいか。

○木和田市民協働課長　はい、委員お見込みのとおりでございます。

○石原委員　このコミュニティ助成金ですが、いつ頃申請されて、交付決定、いつ頃お出しいただけるものか。

○木和田市民協働課長　例年８月に通知がございます。１０月末をもってこちらから申請をさせていただきまして、決定のほうは年度末、３月の末、ほぼ末に決定の通知が来ることになっております。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

歳入を終わります。

次に、歳出に入ります。

審査の範囲は、６０ページから８１ページの２款総務費、１項総務管理費までを審査対象といたします。

質疑がある方の発言を許可いたします。

○青山委員　８１ページの自治振興費の負担金補助金及び交付金、有線無線放送の施設整備設置事業補助金６０万円、これは引き続きやってる事業だと思うけど、今未設置のところは何軒ぐらいありますか。

○木和田市民協働課長　その数値については把握しておりません。

○青山委員　この放送設備、特に冬場とか夏で窓を開けない状態だと、なかなか外の放送が聞こえないという状況です。中にあったらよく聞こえて大変助かっているけど、そういう意味でもっと進めるということをされてる、違うんですか、これは。戸別受信とは違う。

○木和田市民協働課長　今委員おっしゃられたのは、多分戸別受信機のことではないかと思うんですが、そちらは市民協働課のほうではございません。

○青山委員　これは外につける、要するに地域でやってるような放送に補助金をつけるというこ

とか。

○木和田市民協働課長　ラッパとかついてると思うんですが、外についている放送設備でございます。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、８０ページの２款総務費、２項徴税費から９１ページの２款総務費、６項監査委員費までを審査対象といたします。

質疑がある方の発言を許可します。

○尾川委員　８５ページの戸籍住民基本台帳費、役務費の通信運搬費４４７万８，０００円、昨年に比べたら高額に、その辺の説明をお願いできたら。

○文田市民課長　こちらの通信運搬費の増加につきましては、今年度戸籍の振り仮名が法制化されまして、そちらにつきまして対象者の方にお知らせする予定にしております。こういったところの郵送費が主なものになっております。

○尾川委員　その上の印刷製本費も、何か計画されとると思うけど、内容について説明して。

○文田市民課長　繰り返しになりますが、今お伝えしたとおり、戸籍の振り仮名、はがきでお知らせするんですが、そういったものの印刷費でありますとか、あとはマイナンバーの関係で、チラシ、お知らせをしたりするもの等々の印刷製本費になっております。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に移らせていただきます。

３款民生費、１項社会福祉費と２項老人福祉費までを審査範囲といたします。１０１ページまでです。１項社会福祉費と２項老人福祉費を審査対象といたします。

○守井委員　９５ページで社会福祉費の繰出金の国保事業の考え方をお聞きしたい。上げないようにということで繰出金を増やして県に移行するまでの安定的な国保会計を図るというお話を聞いておりますけれども、昨年に比べて多かったり少なかったりするけど、国保会計の繰出金の考え方をお聞きしたい。

○高橋保健課長　一般会計からの繰出金につきましては、法定繰り出しでございます。

○守井委員　その中で全般的に減額に、例えば保険基盤安定保険税軽減分１億３，０００万円、昨年１億４，０００万円とか、法定の繰り出しの根拠はどんな計算式ですか。減額になっとるのは、何かを基準にして、何かの措置が少なくなったからそれで少なくて済むという格好になってるかと思うけど。

○高橋保健課長　被保険者の状況による実績見込みで減額になっておりますが、まずは団塊の世代が今年度中で全員後期高齢者のほうに移行いたしましたので、被保険者数の大幅な減ということが大きゅうございます。

また、基盤安定に関しましては、前期高齢者の割合が高齢化が少し改善したということで、保険税の軽減分というものが、補正でもありましたが少し少なくなりましたので、そのあたりを見越しております。

また、出産育児一時金は１３名の出産を見込んでの数字となっております。減額になっております。

また、未就学児の均等割の保険料につきましても、未就学児を６０人と見込んでの減額の数字となっております。

○森本委員　９５ページの社会福祉総務費の社会福祉協議会の補助金約５，０００万円、昨年が３，６００万円、その前が４，５００万円、今回大きく回復されているけど、内容について。要望等出てたと思うんで、それにしっかり応えられているのかどうかも含めてお願いいたします。

○菊川社会福祉課長　社会福祉協議会の補助金についてでございますが、先ほど委員もおっしゃられましたとおり、実際に要望書が提出されております。補助金の算定に当たりましては、社会福祉協議会へ繰り返し聞き取りを行っております。今年度のその中で収支の状況であるとか、それから翌年度への繰越しする見込額等、それらを踏まえまして来年度に必要な事業予算を精査しております。

その中で、特に令和６年度は財源不足を補うために積立金を取り崩して運営している状況でございました。前年度からの繰越しや社費、それから本補助金などの一般的な財源で積立金を取り崩さずに運営できることを基礎として今回計上させていただいておるところでございます。

○守井委員　９７ページの社会福祉費の役務費の通信運搬費の増額は何か。

○木和田市民協働課長　こちらの増額の主な理由ですが、第４次備前市男女共同参画基本計画が令和８年度をもっての計画となっております。令和９年度からのまた５か年計画を策定するに当たりまして、令和７年度中にまずある一定数のアンケート等を取る、そういった必要性がございますので、ここで通常年とは違う予算を計上させていただいておるところです。

○守井委員　９９ページ、老人福祉費の老人福祉総務費の１９節負担金補助及び交付金、シルバー人材センター運営費事業補助金も社会福祉協議会と同じように、シルバー人材センターへ労働の均等という形で補助しておると思いますけど、この事業は順調に受けられる補助金でしょうか、昨年と同じということですけども、いかがでしょうか。

○梶藤介護福祉課長　こちらにつきましては、昨年と同額で上げさせていただいております。

事業につきましては、会員数が伸び悩んでおりましたが、今年度につきましては約１５人ぐらい増員となっておりますし、会の運営についても市の事業等にも御協力いただくような形で運営をお願いしております。

○守井委員　シルバー人材センターとしての事業も順調にいっておるという解釈でよろしいか。

○梶藤介護福祉課長　はい、会員の皆様の就業率も約９０％近くということで、事業についても順調とお伺いしております。

○石原委員　同じ件で、先ほど幾らか会員が増えられて１５名ほどと御説明ございましたけど、会員、現状で何名おられるんでしょうか。

○梶藤介護福祉課長　１月末でございますが、現在１５４名の会員数でございます。

○石原委員　同じページ、老人福祉総務費で６年度当初時点では老人保護措置費、委託料で計上されておったものが、２０節扶助費のほうへ老人保護措置費として計上されてますが、この動きについてお聞かせいただければ。

○梶藤介護福祉課長　備前市のほうでは委託料で今まで上げさせていただいておりました。こちらにつきましては、老人福祉法の中で、高齢者の方の環境上、または経済的な理由の方を措置による入所という形になっております。そういった性質上、扶助費ではないのかというような議論も過去にもあったというふうにお聞きしておりますが、やはり身寄りのない方とか経済的な理由で措置をさせていただき、生活を維持するための支出に対する経費という性質上のところで扶助費というふうな形にさせていただきました。

　また、他市の状況もいろいろお聞きしましたが、もうほぼ皆さん扶助費で上げられているという状況もお聞きしておりましたので、このたびここで変えさせていただいております。

○石原委員　９２ページからの社会福祉総務費、負担金補助及び交付金、専任手話通訳者会負担金２，０００円、手話に目が止まったけども、しばらく前に備前市では手話言語条例を制定されております。手話に対して市も市民も皆しっかり関心を持って取り組んでいきましょうという条例と思うけど、手話の取組に関する予算計上、例えば人件費のところに含まれても分からんですけれども、何かあればお聞かせいただければ。

○菊川社会福祉課長　手話に関する事業費ということでございますが、毎年度手話通訳の講習会を実施しております。今年度も三石の公民館だったと思うんですが、そちらで実施しておりまして、延べで７名の方が受講されております。今思いついたのは、そこの件でございます。ほかにもあるかもしれません。

○石原委員　その講習等に係る費用が７年度の当初予算にもいずれかへ盛り込まれとるということか。

○菊川社会福祉課長　委託料だったかと思います。

○石原委員　どの委託料になるんでしょうか。

○菊川社会福祉課長　１３節委託料の中の一番下、地域生活支援事業委託料、この中に手話の講座等の事業が含まれております。

○石原委員　地域生活支援事業委託料の委託業務についてもう少しお聞かせいただける、多岐にわたるかも。

○菊川社会福祉課長　おっしゃられるとおり、多岐にわたります。障害者福祉サービスとは別に、地域や利用者、地域の実情に応じて市が実施するものでございます。例えば、障害者の相談支援事業であるとか、あとは先ほどの手話であるとか、あと要約筆記とか、そういったものの養

成事業も行っております。それから、理解促進であるとか、イベントへの参加であるとか等々ございます。

○守井委員　９９ページ、老人福祉費の老人福祉総務費の扶助費、敬老祝い金１３０万円計上されとるけれども、１０万円だったら１３人となるが、去年２４人予定してたのが今年１３人ですが、増えると思うけど、その点はいかがですか。

○梶藤介護福祉課長　６年度は確かに２４人の計上をさせていただきまして、実績としては１６人の予定です。高齢者が増えてはいるんですけども、７年度につきましては予算時の住基等の確認で１３人ということになっておりますので、高齢化もありますが、このあたりは、今後後期高齢者も頭打ちになってくるところもありますので、だんだん減ってくるという可能性もあると思っております。

○守井委員　いわゆる団塊の世代がまだたくさんおるんで、１００歳、まだ増えると思うけど、令和８年は何人ぐらいになるんですか、今のままでいくと。

○梶藤介護福祉課長　すみません、令和８年は計算しておりません。

○守井委員　これも１０万円が大分長いという感じがしますけど、倍ぐらいにしたらいかがでしょうか、検討してみてはいかがですか。

○梶藤介護福祉課長　またちょっと人数も鑑みて検討はしたいと思いますが。

○森本委員　９９ページ、負担金補助及び交付金の老人クラブ活動補助金、年々減ってきてるように思います。現状を教えてください。

○梶藤介護福祉課長　老人クラブですけども、年々減少の傾向にはございます。令和５年度から見ますと、実績でいうと令和５年度、６３クラブが、令和６年度、４６に減りました。令和７年度については少し戻っていく予定でございまして、５９クラブというクラブ数で今予算計上させていただいております。役員の成り手だとか、それから老人クラブといえども６０歳からの加入がやっぱり難しいとかという地区のいろんな事情も聞いております。市老連に加入していただかなくても、地区で活動してくださっているクラブもあるというふうな状況でありますので、一概には言えないですけども、減ってはいますが、地区での活動も継続しているクラブもあるというような状況でございます。

○森本委員　お世話をしてくださる方も高齢化なので、できれば早い段階で入っていただいて、車に乗って移動される方が老人会のチラシとか配っていただいたりしてると思う。そういう形で少しでも継続できればいいかとは思うけれども、高齢化はどうしても避けて通れない道で、役員の方も大変だというお声も聞いてるので、またこれが継続できるような何かありましたら考えていただきたいと思っております。

○尾川委員　老人クラブの運営規則というか、そのあたりの見直しは行われていきょんですか。

○梶藤介護福祉課長　運営規則といいますか、老人福祉法の中であります規則については変えてないです。もちろん変えてないですけども、補助金を出すに当たりまして、その補助金の使い方

でありますとかというところは全約６０クラブの方々にできるだけ適正なお願いをしてるところでございます。年齢のこととかというあたりは、老人福祉法では今でも６０歳以上という規定にはなっておりますが、地区の中での取決めをそれぞれ運用していただいてるような状況ではございますので、やはり今高齢者の生活様式も意識もいろいろ変わってきているという状況ではあると思ってまして、老人クラブに全員が入らないといけないという状況ではない地区もあるし、それぞれ趣味を持たれたり、自分の生き方というものもありますので、そういった固定概念ではなくなってきているのかなというふうには感じているところでございます。

○尾川委員　増やそうとしておられるとは推察するけど、市としたらどういう方向で、どうお考えなんかと。安否確認とか防災の問題からしたら小さいグループでも継続していったほうがええんか、地域の力がなかったら、それも集まらんようになってきてしまうということがあって、これと社会福祉協議会のある憩いの広場じゃったか、あの辺の連携は特に考えとられんのか。

○梶藤介護福祉課長　先ほども申し上げましたように、やっぱり自分の属する団体を自分で選ぶ時代にはなってきているというふうには思っておりまして、老人クラブ自体の活動も、自分たちの健康づくりであったり、それから地域の奉仕活動であったりというところに関しましては、生きがいとか役割っていうあたりについては、老人クラブに地区もお世話になっているところもあるというふうには聞いておりますので、そういった意味で老人クラブをできるだけ増やそうというか継続をしていただきたいという形でのお願いといいますか、はさせていただいてると思います。ただ、やっぱり活動の仕方として、先ほども言いました役員の成り手がなくなっていくとかということが大きな課題になっているので、そうなるとそういった憩いの場とか地域にあるサロンだとかというところとの連携もしていっている地区もありますし、全く違う組織としてやってるところもあります。日生地区はもともとの老人会のゆうあいさんが基で憩いの場を立ち上げている経緯もございますので、全く関係のないというわけではないと思っております。

○尾川委員　ぜひ、いろいろ御検討して、地域のコミュニティーを醸成するためにはどうしたらええかというのをよく考えて、敬老事業のアンケートを読ませてもろうても、結局何だったんかなと思いながら読ませてもらったけど、その辺も絡めて一度御検討を、どういうふうにあるべきかということを社会福祉協議会との連携もあったりすると思うんで、大変ですけど、その辺は課題として取組をお願いしたいと思うけど。

○梶藤介護福祉課長　高齢期といいますか、やはり先ほども委員おっしゃられたように、地域の助け合いだとかというふうなところにも波及していくのかと思うんですけども、よく言われる地域包括ケアシステムの中で地域がお互いに助け合うことをしていく、その中に老人クラブがあったり、サロンがあったり、憩いの場があったり、それから住民の主体的な組織があったりというふうに思ってますので、そこの連動は必要であるというふうに思ってます。

私たちが思う組織よりも、やはり地域に住んでる方々が別に１つに属するんじゃなくて、２つ、３つ、活動していただいても構わないことなので、そういったあたりを柔軟にできるように

というふうには、私のほうではそのように思っております。

○守井委員　同じく負担金補助及び交付金の移動販売サービス事業補助金２００万２，０００円の予算づけになっております。これはとくし丸とそれから離島がまだやってるかと思う。最近では一企業が移動販売をやられとるのは時々見るけれども、そのあたりも含めて移動販売サービス事業の令和７年度の予定はどのようになっているか、お聞きします。

○梶藤介護福祉課長　令和７年度につきましても、とくし丸、それから諸島地区への移動販売の補助という形で予算は上げさせていただいております。

とくし丸につきましても、大分もう継続的にしていただいている形で、定着しているということと、島につきましては、やはりもう生活基盤になっているというふうに思っておりますので、継続した事業と思っています。

新しいルートとかというところにつきましては、そういった移動販売が行っていないところに今少し高齢者の御意見をお伺いするような形で、サロン等に出向いて伺っておるような状況です。

必要であれば増やすとかというような検討もしたいとは思っておりますが、どちらかというと、やはり高齢者の移動販売よりも買物に自分で行きたいというふうな要望が多いということも聞いてますので、少し、移動販売に限定せず、そういった買物支援っていう検討も必要かなというふうには思います。

○守井委員　移動販売の場合、一応エリアが決まっていて、大分拡大ができておると思っておるけども、区域的なエリアの制限はまだ設けておるんですか。

○梶藤介護福祉課長　具体的にこうではないですけど、商業施設があるような地区につきましては、やはり移動販売が行っていないっていうような状況ですので、かといって、交通手段がなかったりする方については、近くにあっても行けないという状況もあると思っておりますので、一概にあまり制限を設けてるわけではないですが、個人の人から依頼があれば、そこに行ける余裕があれば移動販売も動いてくださっているという柔軟な対応は現在しております。

○山本委員長　暫時休憩いたします。

午後０時０２分　休憩

午後１時００分　再開

○山本委員長　休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

老人福祉費、質疑ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に移らせていただきます。

３款民生費、３項児童福祉費を審査いたします。１００ページから１１０ページまでを審査範囲といたします。生活保護費、災害救助費まで審査いたします。

○尾川委員　１０１ページの報酬で子ども・子育て会議委員報酬、基本計画をつくるのが済んだ

からということだと思うけど、全体的に国の動きは、備前市ではこどもまんなか課長がおられて、その割にはちょっと予算の組立てについて、例えばこどもまんなかフェスタの業務委託料も予算の上で下がってるし、細々見ていくと、こどもまんなかと言う割には、国のほうは力を入れとるにしては備前市は入れてないんじゃないかと思うので、全体的な取組の方針、令和７年度の予算絡めて子ども・子育て支援について、御説明願いたい。

○竹林こどもまんなか課長　子ども・子育て関係で経費でどうしても減ってしまいますのは、子供の人数の減少が何かにつけて影響しております、全体として。先ほど委員おっしゃられましたフェスタの委託料とかも、実は消耗品で一部振り替えて計上したりとかということで、全体としてはほぼ変わらないような形で予算計上自体はしておりますので、特別、委託料が減ったからといって何か規模縮小したりとか、そういったことは考えておりません。

その他事業費につきましては、例えばですけども、ちょっとページが先になってしまいますが、児童福祉施設費にございますような子育て支援拠点事業の委託料とか、そういったあたりは大きく増額にもなっております。全体として事業を何か縮小してというのは、特別今回考えておりませんので、減っておるものにつきましては、やはり人数とか、そういったところに連動するものが主なものだと考えております。

○尾川委員　その辺いろいろ考え方あるけど、拠点で、Ａさん、Ｂさんじゃなしに、全体的に、単なる人が減ったから予算減して、単純に単価掛ける人数じゃなしに、やっぱり上げていくべきじゃねえかな、力を入れるなら金をどっと、市長、そういう考えじゃが。子ども・子育てについて、もっと思い切って、今の子供を大事にしたら、後、続くんじゃねえかという期待と思う。だから、お母さん方にもっと力を入れていくとか、子育てにもっと力入れていくとかということに、事業規模を減しとんじゃねえと言われるけど、もっとプラスアルファで、思い切った形でやっていくべきと思うけど、その点説明してもらいたい。

○竹林こどもまんなか課長　おっしゃられること、よく分かるんですが、例えばいろんな給付金とかを仮に増やしても、今まで増える一方で来てたと思います、実際。それで、現状を見たときに、それが直接的に効果があったかどうかというのは、ちょっとどうかなというところもございます。実際、子育て支援の現場では、やはり人対人みたいなところの支援というのが必要になる場面が多いと感じております。そういったところで、職員、会計年度任用職員も含めてですけども、人員体制の中できめ細かい相談支援とか、そういったところでは力を入れておりますので、金額ではないようなところでの支援というのも非常に重要じゃないかなと担当課としては思っております。

○尾川委員　今、人の問題が出てきたけど、会計年度職員の報酬が倍近くなっとるけど、その辺のことを言われたわけですか。

○竹林こどもまんなか課長　ここでは、増えてるのはありますけども、計上の費目が今回変わって、例えば児童福祉総務費だけ見ると増えたような形には見えますけども、組替えとかもかんで

ますんで、人員が増えたというようなことにはなっておりません。人員としては変わらないような方向でやろうかなと思ってます。

○尾川委員　こどもまんなかフェスタにしても、本当にこの内容でええかどうかを検討してみる必要があると思う。本当あれで子供たちが集まって、どういう効果が上がっていきょんかというのを把握されとんかどうか、頭数したら企画の内容がもっと充実する、もっとほかのもの、ニーズがあるならそういうほうへ、金だけじゃねえけど、４０万円ほどのが２０万円ほどになる、半分近い削減になっとって、同じような規模じゃこうじゃというたって、やっぱり先立つものは金と思うんで、そういうところから見て、本当に力入れとんかなと、備前市はと。要するに給付が増やすだけじゃ単純にいかんと思うけど、中のそういうものの何かをきっかけに見直しをやるべきじゃねえかという、こういう数値から見たら、そんな感じするんで。何かあったら。

○竹林こどもまんなか課長　ありがとうございます。フェスタの委託料につきましては、先ほど申しましたように、事業費のほうに十数万円振り替えたりはしてるので、実際にはほぼ前年並みの額は確保しております。そんな中で、実際今年度やっていく中で実際消耗品とかそういったのは直接委託料じゃなくって消耗品として買えるものは市の公費で直接買おうとか、そういった、ちょっとやり方を工夫した面もありますので、事業として何かすごい変えていくというのはないと思ってますし、特に今年度フェスタにつきましては、合併２０周年記念ということで、ｅスポーツの体験というようなことも初めてやってみました。そういって、限られた予算ではありますけども、多くの子供たちが来ていただけるようなことで、何か新しいものでも考えていきたいなというのは考えておるところでございます。

○尾川委員　フェスタでかかる費用はこれを見たら単純にこれが総額というふうに見とって、消耗品とかそういうもんは別のところへあるという見方はしてないから。だから、単純に、３６万８，０００万円が２０万円になって予算が減っとると思うてお聞きした。

○守井委員　児童福祉総務費の１３節委託料の子育て短期支援事業委託料、里親制度と聞いておるけど、何か所ぐらいでこれが行われておるのか。

○竹林こどもまんなか課長　子育て短期支援事業につきましては、例えば独り親の方が入院だとか育児疲れですとか、精神的な負担が大きくなったときのレスパイト、ちょっと一時避難的な使い方になります。その委託先としましては、市内の里親で２か所ということで実施をしております。

○守井委員　その下の負担金補助及び交付金の子どもの居場所づくり促進事業補助金、若干増えておるが、令和６年は５か所と聞いておったけど、実態は何件あるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　今年度の実績としましては、５件補助をしております。来年度の当初予算につきましては、一応満額で見て、７件分は確保しようということで計上させていただいております。

○守井委員　三石にも何かあると聞いておるけど、三石の分も入っているんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　三石子ども食堂については、今年度でも補助団体になっております。

○尾川委員　出産祝い金が１０万円と資料に書いてあるけど、豊後高田市が子育て応援誕生祝い金最大２００万円、そういうことは検討されてないですか。

○竹林こどもまんなか課長　あまり出産時の給付金を大きくしますと、やはり弊害もあるかと思います。転入してきて、そこだけ給付を受けて、いずれ転出するというようなことも可能性としては十分にあり得ると思っております。あまりそこだけ注目を浴びるような上げ方をしても、やっぱり後々それに見合うといいますか、定住していただけるかどうかも分からないところにそのときだけすごい大きい金額を出すというのは、担当課としては考えていないです。

○守井委員　家庭育児応援金、減額の理由。

○竹林こどもまんなか課長　家庭育児応援金につきましては、実績見込みから計上しているところです。今年度につきましても、今回の補正予算で減額しているように、やはり出生数の減、それから家庭で実際育児される方が入園希望されてもほとんど入れますので、そういったところで人数が減っているというような状況でございます。

○尾川委員　今の話で、あまり効果がないと、市としては家庭育児応援金はそれほど、何が決め手というと難しいところあるけど、あまりそういう効果は期待できんと見られとるわけ。

○竹林こどもまんなか課長　出生数の増加に寄与するとは思ってないところはあります。ただ、保育料自体が無償化になっておりますので、こども園に入ってない子との差が大きくなってしまいますので、保育料の無料化の代わりといってはなんですけども、家庭で育児される方にもそれに近いだけの支援といいますか、そういったところで考えたときに、園に入った方は無償化でメリットがあります、家庭で子育てされている方も家庭育児応援金として月額、上限２万円分ですけども、ポイントで支援するといったところで、バランスを考慮しているというようなところが大きいと思います。

○尾川委員　子育ては親がやるもんか、それともこども園へ入園させて育てるのかという、女性が働きに出るように、そういう方針は大きな流れとすりゃ、いつ頃から家庭育児応援金ができたのか。受入れ体制がなかったときに考えたことか、それとも子供はやっぱり親が育てるものと、旧式の考え方で、そのあたりはどういうふうに担当の方は思われとんですか。

○竹林こどもまんなか課長　委員おっしゃるとおり、令和５年度に開始になっておりますが、当時、待機児童も若干出ていたと記憶しております。そういったところで、家庭でも見ていただける方については、補助、支援しつつ家庭で見ていただくというのは、当時の発想としてはあったんだと思います。それによって、先ほども申しましたように、子供が生まれる数が増えるかといいますと、なかなか難しい。出生数の増っていうのは、担当課としましては子育て支援の政策だけでは無理じゃないかと思っております。やはり企業誘致ですとか、住む場所の確保、そういった働く場所と住む場所の確保、そういったところがベースにあると思いますので、子育て支援の

給付だけで子供が増えるというのはないんじゃないかなと、担当課としては考えております。

○尾川委員　ぜひそういう意見を、横串が好きなんやから、市長は、スタッフが、５人じゃったか横串で人選してやる、新しい組織つくるとお聞きしとるんで、その辺でよく提案してもらいたいと思うけど、何かあったらお願いします。

○竹林こどもまんなか課長　そういったプロジェクトチームというような形は、一般質問の答弁でしたか、市長の口からもあったようには聞いておりますので、そういった中のメンバーに、いずれにしても子育て支援の担当課としてはかんでいくようになるんじゃないかなと思っておりますので、そういった会議なり協議の場ではそういったことも言っていこうかと思います。

○守井委員　その下の児童措置費の扶助費の中の児童福祉年金がかなり増えておるが、何らかの制度が改革されたのかと思うが、いかがでしょうか。

○菊川社会福祉課長　この児童福祉年金につきましては、前年当初が８４万３，０００円、今年度が８５万７，０００円でございます。

○守井委員　変わってない。ごめん。児童手当じゃった。

○竹林こどもまんなか課長　歳入でもございましたが、児童手当につきましては、令和６年１０月に拡充されておりますので、その関係でございます。

○石原委員　１０７ページの児童福祉施設費、負担金補助及び交付金で病児保育事業負担金２３０万円、積算の根拠、お教えいただければ。

○竹林こどもまんなか課長　こちら備前病院で病児保育を実施しております。その関係の人件費とか消耗品、備品購入費などの経費に対して、吉永病院に負担金としてお支払いする額が２００万円、それから市内の方が市外の病児保育の施設を使用した場合に、その他市町からの請求に基づいて支払う負担金を３０万円計上させていただいております。

○石原委員　かなり広い圏域の子供が備前市内のそういうところ、吉永病院でこういう病児の御利用されるでしょうけれども、雑入でも利用された負担金、幾らか計上されておりましたけど、子供さんの状態に応じてですので分からけど、令和７年度の利用に当たってはどれぐらいで見込まれとるのか。

○竹林こどもまんなか課長　吉永病院への負担金につきましては、利用があってもなくても、保育士の確保ですとか、そういった固定の経費っていうのは一定程度かかります。そういったところでの負担金になっておりますので、増減、実績での精算っていうのも多少あるんですが、あまり増減はないということでございます。

○青山委員　１０７ページ、１３節委託料、子育て支援拠点事業委託料が昨年よりかなり上がってると思うけど、どういう増額になっとるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　子育て支援拠点事業の委託料につきましては、全額国庫補助の対象になっております。子ども・子育て支援交付金の対象になっております。国と県の補助金がございます。そういった中で、補助基本額が物価や人件費の高騰につれて、補助の基本額、基準額と

いったものが上げられております。そういったものに対応しての増額と、あと第三の居場所としての事業についての委託部分を若干見込んで増加になっております。

○青山委員　何か所でやられたですか。

○竹林こどもまんなか課長　現在委託として４か所しております。伊部と久々井と吉永と日生と４か所で委託しております。それ以外に、委託料ではないですが、拠点としては直営部分で伊里の、今年度については伊里の子育て支援センターも拠点と言われる施設に含まれております。経費は、それぞれ直営部分については人件費とか消耗品とか、そういったところで取っておりますが、直営合わせたら５か所ということでございます。

○尾川委員　子育て支援の拠点事業委託料の関係で、子供の数が減ってきて、拠点が増えてくるというのは、コンパクトになっていきょうると、どう理解したらええんですか。

○竹林こどもまんなか課長　拠点につきましても、子供の利用、親子での利用なわけですが、利用人数が減ったからといって人件費とか運営の維持管理経費的なところがたちまち人数につれて減るかといいますと、やはり固定的な経費がほとんどの部分でございますので、それに対応した委託料ということでなかなかこちらについては減っていかないというようなことになっております。

○尾川委員　このあたりの施策は、今後も力を入れていくべきと思われとるわけ。

○竹林こどもまんなか課長　拠点につきましては、利用人数、実績とかも毎年決算時とかにはいただいとるわけですが、１か所当たりがあまりにも利用が少ないということになりますと、やはり箇所数を考えていく必要はあろうかと。先々の話としてはそういうこともあろうかと考えております。ただ、利用する側からいきますと、近くにない、遠くまで車で移動する、そういったところがどこまで理解いただけるのか、そういったところはあろうかと思います。ただ、来年度、このたび直営の伊里の子育て支援センターを学びと遊びの健康プラザ内のおもちゃ広場のところに移転するということで議案も提出させていただいたところでございます。そういったところが中心となって将来的に集約することになっていくのかどうかというようなところは、今後の検討課題だなと考えております。

○尾川委員　この施設は連携というのはどういうふうになっとるわけ。事業とすりゃ独立でやっとると思うけど、拠点間の連携とか、あるいは市としてどういう在り方であるべきかとか、こういうあるべきとかという指導、もうお任せなんか、その辺ある程度干渉していきょんかが気になる。

○竹林こどもまんなか課長　情報共有みたいな場はありますので、連携といったところではもちろんできていると、もちろんこどもまんなか課にございますこども家庭センターというのを今年度設置したわけですけども、そこを中心に連携はしております。

○尾川委員　これは希望する施設へ行けるんですか、フリーで。日生地区の人は日生へ行きなさいじゃなしに、今頃通勤とかいろいろあるから、自分の希望するところへ行けるわけですか。

○竹林こどもまんなか課長　それぞれ運営団体によって特色があります。例えば保護者の方が方針とか考え方とかに共感するようなところを見つけたら、もちろんそこに行ったり、近いから行くというよりは、そこに行ってみて、いいところだなと思ったら行くでしょうし、地域を指定してというようなことはございませんし、一律で同じことをしていただいとるという感じではございません。それぞれが特色を持ってやっていただいているということでございます。

○青山委員　伊里の支援拠点が移設することが出たんで、その後はどういうふうに考えられてますか。

○竹林こどもまんなか課長　今の伊里の支援センターの場所をということでよろしいですか。今の伊里の場所を後どうするかということでよろしかったでしょうか。

○青山委員　場所の問題もありますし、伊里に拠点施設がなくなるということで、今後カバーをどうされるのか。

○竹林こどもまんなか課長　伊里の子育て支援センターの後の場所につきましては、もともと伊里の認定こども園の一部ということもございますので、基本的には園の一室として活用いただくことを考えておりますが、そこはまだ詳細は確定しているものはございません。

　あと、現状の伊里の支援センターの利用者の方につきましては、実績は人数がかなり少なくなっております。全体としての出生数なり子供の数が減っているというのもありますが、やはり伊里の支援センターは伊里地区の方の利用がメインになっております。かなり人数が少なくて、利用者のない日というのがかなり出てきております。そういったところで、学びと遊びの健康プラザのほうに移転しまして、ちょっと広域的なところをカバーするような形で、たくさんの利用を見込めたらなということでは考えております。

○青山委員　子供が少なくなったということもあるかもしれませんけど、例えば寒河にある施設とへも行かれてる人がおられるというのは聞いてます。ですから、それぞれの魅力も関係してくるかもしれませんけど、今後状況を見て、また手当てをお考えいただいたらと思います。

○竹林こどもまんなか課長　実際、移転した後もどういった形になっていくのか、やってみないと分からない部分も結構あるので、そういったところで、伊里のその施設についても今後何かしらの形で何かカバーするような形で使うことになるのかとか、そういったところも今後の検討課題かなと考えております。

○尾川委員　国からこういう事業については、どの程度補助金が出とんか。

○竹林こどもまんなか課長　１か所当たりの上限額っていうのはございますので、その範囲内で計上しているところでございます。

○尾川委員　数は何ぼでもええということ。

○竹林こどもまんなか課長　箇所数については特に制限はございませんが、先ほど申しましたように、あまり増えても、１か所当たりの利用人数が極端に少なくなってしまいますんで、そことの兼ね合いかなと思ってます。

○山本委員長　生活保護もオーケーですけど。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、衛生費に移らさせていただきます。

４款衛生費、１項保健衛生費、１１０ページから１１９ページ。

○尾川委員　１１３ページの保健衛生総務費の負担金補助及び交付金、じん肺患者見舞金、金額が下がってきておるのは時代ですけど、令和６年と７年のじん肺患者数を教えて。

○高橋保健課長　じん肺患者への見舞金は、毎月１人、１，３００円支給をしています。年に２回に分けて支給をしております。令和６年の当初では２０４人でございましたが、今現在１７０名ほどになっております。減の理由は、死亡及び転出でございます。

○森本委員　扶助費の妊産婦・乳児健康診査費の中の新規事業シートにも出てます初回産科受診料支援事業、これ赤穂市でも事業されてて、赤穂市で最初市販薬で検査してから、その方は行ってくださったら出しますよみたいなことが書かれてたと思う。備前市の場合はそういうのはあるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　市販薬でというようなことは考えておりませんが、赤穂市のやり方を調べてないので、手続上そういったのが前提になっているのかどうかというのは情報がないです。備前市では、前提としてそういうのを検査してからとか、そういったことは考えておりません。

○森本委員　そしたら、受診しましたが、妊娠はしてませんでしたっていうことになったら、これは支払われないということでよろしいでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　結果的にはそうなると思います。

○森本委員　領収書を持っていくと思うけど、いつまでに提出とか、期限とかはあるんですか。それとも母子手帳発行のときとか、具体的な期限はあるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　まだそういった細かいところでの制度設計というのは至っておりませんので、ただ実際申請される方の不都合がなるべくないような形ではと考えております。

○森本委員　目的としては、実際本当に負担がかかる話ですので、そこの初回部分を見ていくので、子供を産んでくださいよという、安心して産んでくださいよという目的と捉えてよろしいでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　まさにそのとおりでございまして、ただ金額的なものとか、そういったところでは微々たるものかも分かりませんが、安心して子供を産み育てていただきたいというようなところでございます。

○森本委員　財源ですけど、母子保健衛生費国庫補助金で住民税非課税世帯で見ていただいて、あとは一般財源で、対象は全員と捉えといてよろしいでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　国の制度としましては、先ほど委員申されたように、非課税世帯が対象になっておりますが、備前市のこのたびの事業としましては全員が対象ということで実施す

る予定にしております。

○森本委員　要綱等、運用等決まったらお知らせいただきたい。

○立川委員　確認ですけど、この事業シートでは、支援の内容で、医療機関において実施する妊娠の判定に要する費用と書かれておるが、今のお話ですと、妊娠が残念ながら認められなかったと、じゃあ、この分の補助は受けられないという説明だったけど、それでよろしいですか。

○竹林こどもまんなか課長　現状ではそういうふうに考えております。

○立川委員　分かりました。これ読む限りは、判定に要する費用ですから、妊娠が分からなくても分かっても費用が出るのかなという解釈をしたけど、今のお話では、妊娠残念ながらなければお返しくださいということでよろしいですね。

○竹林こどもまんなか課長　現時点ではそう考えておりますが、他団体の状況等も詳細を精査しまして、今後検討していきたいと考えております。

○立川委員　できるだけ検討していただいて、受診費用の補助であってほしいと思います。

○奥道副委員長　１１３ページの負担金補助及び交付金、野良猫のことですが、去年より若干減ってるけど、今年はどういう内容なのか。

○高橋保健課長　昨年度は、補助の申請は３００匹を見込みで予算計上させていただきましたが、今年度３月１０日現在で申請が２４０件でございますので、見込みで来年度は野良猫の不妊去勢手術の１匹につき５，０００円を２５０匹、また手数料、手間賃ですね、２，０００円掛ける２５０匹で予算計上しております。

○尾川委員　野良猫の関係で、今予算は２４０匹で考えとると、これも非常に面倒見てくれる人が特定しとる感じがする。例えば補助金を上げるとか、相当大変な作業みたいに見えるんで、結構近所周り大変です。世話する人はなかなかおられんで、そういう面からしたら少し何か考えたほうが、増えていきょうるから、手術するとかのためには、もうちょっと奨励策が必要と思う。その辺のお考えについて、今このくらいのスピードでいきょうりゃあ、増えるよりはキープぐらいかなという、どういうもくろみかを聞きたい。

○高橋保健課長　この野良猫の不妊去勢手術につきましては、平成３１年からクラウドファンディングを財源に開始をしております。現在、集団でみなしご救援隊というところが一堂に野良猫を集めて手術をするというところから、備前市内の会場で行うということから平成３１年に始まった事業ですが、現在野良猫の手術がそちらでは一番安くて、雄で４，５００円、それから個人の医療機関ではメス、例えば子供がおなかにいるメスなんかは２万円以上というところで、非常に手術費用にも差があります。また、近年野良猫の去勢手術が随分猫の愛護団体等が協力的なので、民間の動物病院でも手術費用が随分下がってきているというようなところもある中で、備前市は財源がクラウドファンディングですので、財源が枯渇すれば助成ができなくなるということもあるので、最低の４，５００円よりは高めの５，０００円の手術費用ということでずっと値上げをせずに来ておりました。今先ほど委員言われたように、捕獲等の手間もかかるということ

で、本年度６年度から１匹につき２，０００円の手間賃をまちづくり応援金という基金を使って開始をしているので、今現在１匹につき７，０００円の助成となっています。

ちなみに、今年度、皆さん個人で去勢手術のほうに猫を連れて行ってくださっているんですけど、実人員でいうと３５人の市民の方がこの補助金を使って、今現在で２４０件の申請をしていただいているということで、本当に動物愛護について非常に頭が下がる思いでおります。

○尾川委員　できるだけ要望を聞きながら対応してもろうてね、２，０００円プラスされとるけど、要は不快感が、野良猫であちこちうろうろするんで、その辺ちょっと着目してもろうて、適切な処置をお願いしたいと思います。

○森本委員　無痛分娩費用助成金、これも新規事業シートに出てるけど、東京都もしてるけど、副作用とか、麻酔も使ったりするので危なくないとは言えないと思う。だからお知らせするに当たって、推奨じゃなくて、こういう制度もありますよということで御紹介をされるんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　この無痛分娩だけをすごく押していくということは考えておりませんので、あくまで選択されるのはそれぞれの妊婦さんですので、そういった情報提供しながら選んでいただくということが重要かなと思います。

○森本委員　掌握されているかどうか分からないけど、市内では無痛分娩を選ばれる方は最近多いんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　正確な人数までは分からないですが、５年度で百十数人生まれた中でも、恐らく１５件前後が無痛分娩じゃないかと思われるということでの精算にしております。

○森本委員　産後ケアの委託料、委託先を教えてください。

○竹林こどもまんなか課長　１６件の委託先がございます。実績に応じて支払いをするということで行っております。

○山本委員長　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に進めさせていただきます。

衛生費の中の２項清掃費、１１８ページから１２５ページ、５款労働費も含みます。

○守井委員　１１９ページの１５節工事請負費の施設整備工事４８４万円、工事が令和７年度で終了すると思うが、この状況はいかがでしょうか。

○岡村環境課長　こちらの施設整備工事４８０万４，０００円でございますが、日生総合支所に急速充電器がございます。そちらの充電器が故障しているため、更新を行う費用でございます。

先ほど委員言われました坑水処理場の工事ですね、こちらにおきましては今年度３月３１日をもって工事が完了するというところで、今外構工事、最後の工程をやっとるところでございます。

○守井委員　繰越しをしなくても大丈夫な事業進捗か。

○岡村環境課長　はい、３月３１日までには全ての工事が完了する予定でございます。

○石原委員　公害対策費、負担金補助及び交付金のゼロカーボンシティ促進補助金について、変更内容等お教えいただければ。

○岡村環境課長　今年度は、太陽光が２０万円、リチウムイオン蓄電設備ということで２０万円の補助金を出しておりましたが、令和７年度では太陽光発電システム整備におきましては４９万円、それから家庭用のリチウムイオン蓄電池設備におかれましては２０万円という形で補助を予定しております。

○石原委員　以前あった、もう少し補助対象のメニューが幾らかあったものがこの２つに絞られて、対象のものがちょっとワイドになるのかなと思いましたけれども、太陽光に係るところが補助対象というか、補助額がアップしたということですね。

○岡村環境課長　はい、そうでございます。以前はこれに加えて電気自動車の補助金だったり、プラグインハイブリッド自動車の補助金、それからＶ２Ｈ充電設備、こういった補助金も行っておりましたが、今回は太陽光システムとリチウムイオン蓄電池という形になります。

○石原委員　１２３ページ、清掃費、塵芥処理費の中の工事請負費２，０９０万円、クリーンセンター備前焼却施設改修工事、これどういった不具合に対するどういった工事になるんでしょうか。

○岡村環境課長　この工事内容につきましては、まず１点目が１号炉の耐火物の改修工事を計画しております。それから、２点目としましてはバグフィルターのろ布の交換、これは１号炉、２号炉ともに交換をするというように計画しておるところでございます。

○石原委員　バグフィルターとは、ろ布とは。

○岡村環境課長　まず、このバグフィルターで消石灰と活性炭を混ぜたもの、カルミューというものをダイオキシンを除去するために吹かしております。それに付着したものがこのバグフィルターという大きな集じん機、この機械の中にろ布といって布の、掃除機でいえばフィルターのようなものが１炉に対して１８０本ぐらい入っています。このフィルターのろ布を交換するものでございます。

○石原委員　２，０９０万円のうち、１号炉の耐火物の除去が幾ら、ろ布の交換が幾らという内訳が分かれば。

○岡村環境課長　１号炉の耐火物の改修のほうが７００万円プラス消費税ついて７７０万円、それからバグフィルターのろ布交換が１，３２０万円を予定しております。

○石原委員　バグフィルターのろ布、交換はどれぐらいの頻度で。

○岡村環境課長　焼却量というか、使用の頻度にもよるんですが、大体おおむね５年ぐらいとお聞きしております。

○守井委員　クリーンセンターの炉の大規模改修をやって、それから吉永と日生が合併して備前市が一体でクリーンセンターで焼却することになってからもう五、六年になると思うけど、焼却

炉の大規模改修を前やったと思う。年数がたつに従って老朽化してくるけど、痛み具合とか改修具合の程度はどのようなお考えかお聞きしたい。

○岡村環境課長　まず、炉のほうですが、今年度補正予算をお願いしまして、２号炉の耐火物の修繕ということで今年度させていただきました。令和７年度にやってない１号炉を改修しまして、これで炉のほうは１、２号とも修繕後の性能が出る焼却炉になってまいりますが、それと同時に、このたびバグフィルターのろ布、この交換をすることによって焼却効率を上げるというふうな形で計画をしておるところでございます。

○守井委員　通常な運転を行いながら止まらないようにできるだけ長く続けなければならないということだと思う。機械も古くなれば年数がたって替えていくということになると思うけど、その辺の計画もずっと立てていただきながら運営をやられてるのかどうか、お聞きしたい。

○岡村環境課長　焼却量、処理量のほうは毎日どれぐらいの処理をやっとるかというのは、年間を通じて認識はしております。そういった中で、焼却量が落ちれば、どこに原因があるかというようなところを調べて、極力焼却量が落ちないやり方等々考えながら、それとともに修繕も並行して行っておるところでございます。

○守井委員　最終処分場で収集物を回収して選別して業者に引き渡す施設を持っておられると思う。この間視察に行かせていただいたけど、かなり年数、いろんな器具が経過しておると聞いておるけれども、更新計画とかを立てられてるのか、併せてお聞きしたい。

○岡村環境課長　最終処分場の上の処理施設のことですかね。

今年度予算でプレス機のメンテナンス等々の予算等々は今年度計画はしております。

○守井委員　停滞のないように、滞りのない運営ができるように平素から気をつけていただきたいと思います。

○尾川委員　１１５ページ、環境衛生費で報償費で資源ごみ回収推進団体報奨金３９０万円、昨年に比べて予算規模で予算では下がっとると思うけど、廃品回収する登録数は今どのぐらいになっとるんですか。

○岡村環境課長　登録数ですが、令和６年度現在が７１団体でございます。

○尾川委員　この団体数についてはどういうふうにお考えか。

○岡村環境課長　こちらの団体数ですが、コロナ禍で活動の自粛で団体数、それから回収量ともに大きく減少し、そのまま増えてないというような状況ではございます。コロナ前の令和元年時には９７団体ございました。それが令和６年度では７１団体ということで、２６団体が減っているというような状況ではございます。

しかしながら、近年排出方法が多様化してるというような状況もございます。例えば、マックスバリュさんとか、事業者が回収ボックスを設置して、２４時間回収ができるようなものを備えたりして、そういったところに出される方も増えているのではないかとは考えておるところでございます。

○尾川委員　私は、この資源ごみ回収は、今老人クラブと同じような感覚で捉えとんです。やはり子供会にしても子供が減ってもうやれんという子供会があるわけです。地域によってはまだまだきちっとやっていきょうるところもある。そういう意味からしたら、ただ廃品回収するということだけでなしに、コミュニティーをつくるということ、少し資源ごみの回収を、環境の問題だけじゃなしに、コミュニティーの問題からも積極的にやっていったほうがええと。今は、クリーンの会社は結構値段が上がってきとんですね。かえって市の買取りというか、キロ５円がずっとキープしとるから、あまり変動せんというのはあるけど、少し単価の問題を検討してもろうて、ただ資源ごみ回収だけでなしに、いろんな役割がありますと、育成していくために、老人クラブもしかりだろうし、こういう資源ごみ回収団体にしても、ただ資源ごみの回収だけじゃなしに、そういう面での捉え方でぜひ検討をお願いしたいけど、その辺のお考えについてお聞かせください。

○岡村環境課長　先ほど委員御指摘のように、ＰＴＡ、それから子供会さん等が減少しとるというようなところは、私どもも認識しております。市としましても、毎年４月に「広報びぜん」にてこのＰＲはさせていただいとんですが、引き続きいろんな方法で、何ができるか考えていきたいと考えております。

○立川委員　この資源ごみの回収推進団体報奨金、例えばアルミ缶１０キロ集めました、そしたら幾らという補助金出してますよね。それでいいんですよね。

　それと、売却に行ったら、先ほど手数料で入ってましたけど、その金額とは別ですよね。

○岡村環境課長　報奨金でございますので、先ほど委員言われたとおりでございます。

○立川委員　ちなみに幾らでした。

○岡村環境課長　１キロ当たり５円の報奨金でございます。

○立川委員　全部一緒。紙類も缶類も一緒ですか。

○岡村環境課長　はい、そうです。

○森本委員　１１７ページの負担金補助及び交付金、生ごみ処理機の容器の購入、若干上がってるけど、今の要綱と令和７年度は変わらないということでよろしいでしょうか。

○岡村環境課長　はい、要綱の見直しは考えておりません。

○森本委員　加熱式とかバイオとか利用される方は増えてるんですか、実際のところ。予算が増えてるということは需要もあるということだとは思うけども。コンポストのほうが増えているということでしょうか。

○岡村環境課長　コンポストと電動生ごみ処理機、それから段ボールコンポストというような形で補助金は出しておるんですが、電動の生ごみ処理機を購入されて補助金を申請される方が増えとるというような印象は持っております。

○山本委員長　次の６款農林水産業費から最後まで一括で審査したいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次に、第３表債務負担行為に入ります。予算書は８ページ、９ページをお開きください。

質疑のある方の発言を許可いたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

最後に、全体で質疑漏れはありませんか。

○石原委員　今年度途中からですか、誰でも通園事業始まったと思うけど、令和７年度で歳入か歳出かどこか反映されとるところがあればですけれども。

○竹林こどもまんなか課長　誰でも通園制度につきましては、今年度、伊里の子育て支援センターでということで実施をしているところでございます。来年度につきまして、学びと遊びの健康プラザにセンターが移転ということで、現状としてはそこで引き続きといいますか、行うこととしております。

職員につきましては、そのセンターの職員で対応することにしておりますので、経費としましては、子育て支援拠点事業の直営経費、人件費等々でございますが、その中での対応ということになります。それにつきまして、国県補助金に続いて、子ども・子育て支援交付金で拠点としての補助金をいただきますので、誰でも通園としての歳入というのは見込んでいないと、ただ事業としては実施する予定としております。

○石原委員　そこまで積極的に他の自治体でもまだ取り組まれているところは少ないのと思うけど、令和８年度から本格的にスタートしていくということで、令和７年度は備前市においては大きな動きはなくというところの想定でよろしいでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　令和８年度から法律上の誰でも通園としての給付制度というのが法律で規定されておりまして、８年度になりますと全国市町村で対応すると、そのときには補助金はもうなくなりまして、予定では普通交付税での参入ということで聞いております。７年度につきましては、国のほうからすると、まだ補助事業であって、やるところやらないところというのがあるような状態になっているということでございます。

○石原委員　令和７年度そういう移行期間があって、令和８年度からは市内あちこちの子育て支援拠点でこの制度が広がって進められていくイメージでおったらよろしいんでしょうか。

○竹林こどもまんなか課長　今年度実証実験的に行っているわけですが、やはりこども園にもう入園されている方が市内かなり多い状況でございます。また、通常の子育て支援拠点ですとか、どうしても預けたい場合に、園のほうで行っております一時保育等の活用というのが一般的にもう既になっておりますので、誰でも通園を特別に活用したいというニーズがやはりちょっと少ないのかなという感じでは思っております。周知、ＰＲ不足の面もあるかもわかりませんが、一時的な預かりですとか、そういったところでのニーズはむしろそういった一時保育とかにあるのかなというところで考えておりますので、例えば８年度以降、市内の子育て支援拠点で次々やるかというのはちょっとそこまでは、今のところ考えておりません。

○尾川委員　今石原委員のやり取りと私の話と違うかも分からんけど、旧アルファビゼンの指定

管理の規定で、できる規定になっとったと思うんで、そういう腹があるわけ。

○竹林こどもまんなか課長　条例での審査のときにも恐らくあったと思いますが、あくまでできる規定をあらかじめ用意しただけであって、現状何か想定してあるかと言われるとないということでございます。

○尾川委員　本当それで管理ができるということと、指定管理の団体としての資格はどうなっとんかを懸念しとるわけ。その話が決まっとってそういう方向に動きょうるよと言うんか、ちょっと気になったから。

○竹林こどもまんなか課長　現状ないということは変わらないわけですが、例えば全館的に、建物を全体として指定管理なのか、フロア、フロアで用途が違いますので、それぞれで考えるのか、そういったところも将来的にはあるかも分かりませんが、現状では何も考えてないというか、予定がないということでございます。

○尾川委員　１２１ページのごみ袋の、塵芥処理費の需用費の印刷製本費、これ横ばいというかほとんど変わらんけど、指定ごみ袋について、大きな袋から小さい袋まであるけど、どういう傾向か教えて。

○岡村環境課長　こちらのごみ袋、指定袋の作製ですが、可燃ごみの４５リッター、それから３０リッター、２０リッター、１０リッター、それから不燃ごみの３０リットルの袋を予定しております。

○尾川委員　１０リッターあたり増えてきょんかなと思うけど、４５リッター多いと思うけど、その辺の割り振りとか。

○岡村環境課長　４５リッターとやはり３０リットルの袋が比較的たくさん出ているというような状況ではございます。

○尾川委員　枚数は分からんですね。

○岡村環境課長　ちょっと枚数のほうは今持って入ってないんで、申し訳ございません。

○山本委員長　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で議案第２号中、市民生活部、保健福祉部関係の審査を終わります。

それでは、これをもちまして予算決算審査委員会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午後２時１９分　閉会